

特 許 記 事

鋼質改良用添加合金

特公・昭 35—4751 (公告・昭 35—5—9) 出願: 33—1—20, 出願発明: 日下和治

Ce 3~15%, La 2~15%, Ca 13~30%, Si 45~62%を含むことを特徴とし, その他 Fe と Al の合計 15%以下, 又は Nd, Sm, Pr の合計が常に Ce と La の和 30% 以下と, 更にやむを得ない不純分を含みうる。

覆光電弧熔接法

特公・昭 35—4753 (公告・昭 35—5—9) 出願: 32—9—6, 優先権: 1956—9—7 (スウイス) 発明: カアル・ランダアル, スベン・ランダアル, 出願: アルメンナ・スベンスカ・エレクトリスカ・アクチエボラゲット

金属圧延の圧着防止剤

特公・昭 35—4755 (公告・昭 35—5—9) 出願: 32—9—15, 発明: 小崎正秀外 4 名, 出願: 住友軽金属工業株式会社

純金属粉末の電解析離的製造法

特公・昭 35—4756 (公告・昭 35—5—9) 出願: 31—6—7, 出願発明者: 広瀬信雄, 出願: 三谷隆一

オーステナイト不銹鋼の製造方法

特公・昭 35—4852 (公告・昭 35—5—10) 出願: 33—7—14, 発明: 米持重太郎, 小林 浩, 出願: 関西電気製鉄株式会社

ニッケルと鉄との酸化物を含む鉱石類と非炭素質還元性物質とにより, 同非炭素質還元物質と少量の炭素とを含む鉄—ニッケル合金を造り, 他にクロムと鉄との酸化物を含む鉱石類の熔融燬を造り, その中に前記の合金を熔融状態で流入することにより, 前記の非炭素質還元性物質にて熔融燬中の酸化金属を還元し, 反応終了後滓を除くことを特徴とする。

白金系磁石

特公・昭 35—4853 (公告・昭 35—5—10) 出願: 33—8—13, 発明: 森脇和男・佐田岳夫, 出願: 日本特殊鋼株式会社, シチズン時計株式会社

重量比にて白金 75~83%, 残余コバルトよりなる白金コバルト磁石の重量百分率に於て Cu を 0.1~2.0% 含有せしめる。

希元素鉱物の処理法

特公・昭 35—4856 (公告・昭 35—5—10) 出願: 33—6—9, 発明: 牧島玄一郎, 出願: 株式会社小松製作所

熔接用電極に関する改良

特公・昭 35—4860 (公告・昭 35—5—10) 出願: 32—4—8, 優先権: 1956—4—11 (米), 発明: ピェールエミール・グラン, ジョーデ・レイモンド・ピース, セオドア・エフ・レイム・キールグレン, 出願: ゼ・モンド・ニッケル・コムパニー・リミテッド

クロム 10~25%, 鉄 0~20%, ニッケル少くとも 50%を含有し他の成分を含有し又は含有しないニッケルクロム合金の芯線にフラックス被覆を被覆してなる電極に於て該電極に電極重量の 1.5~5% のニオブウム,

0.5~7% のモリブデン並に 0.75~4% のマンガンを含ませた。

管の熔接装置

特公・昭 35—4861 (公告・昭 35—5—10) 出願: 32—3—14, 優先権: 1956—3—14 (米), 発明: ロバート・ジェイムス・スタントン, ウォーレス・コリンズ・ラッド 出願: マグネチック・ヒーティング・コーポレーション

鉄鉄の精錬方法

特公・昭 35—4951 (公告・昭 35—5—12) 出願: 33—12—23, 優先権: 1957—12—23 (オーストリー), 発明: ルイス・ランベルト, ウイルヘルム・セルダ・チェック, ジョージ・メッサン, 出願: 日本鋼管株式会社

酸素若しくは酸素富化気体を塩基性鋼滓の存在下に熔融せる金属の表面に吹付け, この過程及びその最終時に溶鉄を鋼滓より分離し, 且精錬過程を三つの段階に分けて実施し, 第 1 の段階においては熔融せる装入物を先行チャージの最終鋼滓と反応させ, 且装入物を軽少なエネルギーを以て炭素成分 3.5% から 2.5% を含有するに到るまで吹精し, 第 2 の段階においてはより広汎な鋼滓構成成分の添加の後炭素成分を 2.0% から 1.0% を含有するに到るまで軽少なエネルギーを以てこの過程を継続し, 第 3 の段階においては新たな鋼滓構成物添加後強度の吹精エネルギーを以て希望する炭素成分の得られるまで行うことを特徴とする 1% 以上の磷成分を有する鉄鉄, 特に磷成分 1.7% から 2.20% を含有するトーマス鉄鉄の精錬方法。

金属の鑄造用鑄型の製造方法

特公・昭 35—4952 (公告・昭 35—5—12) 出願: 34—2—17, 優先権: 1958—2—21 (英), 発明: アルバート・ロナルド・クリフトン・ウェストウッド, 出願: イムペリアル・ケミカル・インダストリーズ・リミテッド

バイメタル

特公・昭 35—4954 (公告・昭 35—5—12) 出願: 32—5—15, 出願発明: 落合勝雄

高膨脹合金として, Ni 70~85%, Mn 0.1~1.5%, Si 0.02~1.2%, Co 0~0.8%, Mo 0~5%, Fe と低膨脹合金としては Ni 35~43%, Mn 0.1~1.2%, Si 0.01~1%, Co 0~1% 残鉄とよりなる。

硫酸焼鉱の浮遊選鉱法

特公・昭 35—5252 (公告・昭 35—5—17) 出願: 32—8—19, 出願発明: 富岡芳季

淡水で解離性無機塩類を除去し, 水素イオンの濃度を 10^{-3} ~ 10^{-7} にして鉱液パルプ中において, 硫酸焼鉱中の鉄分をあらかじめ使用する脈石抑制剤で乳化懸濁した脂肪酸系陰イオン捕集剤を水に稀釈させてオイル・イン・ウォーター型分散を生じさせ, これに鉱液パルプを加えて泡立ちのないよう条件付与を行つて後, 浮遊選鉱で濃縮回収することを特徴とする鉄分回収法。

焼鈍炉の強制冷却塔

特公・昭 35—5253 (公告・昭 35—5—17) 出願: 33—7—10, 発明: 落合常巳, 竹村頼二, 横田弥太郎, 出願:

富士製鉄株式会社

線金の連続熱処理法

特公・昭 35—5254 (公告・昭 35—5—17) 出願: 32—617, 出願発明: 藤原鉄次

直接電気製鋼法

特公・昭 35—5255 (公告・昭 35—5—17) 出願: 33—2—18, 出願発明: 中島統一

密閉、模型ロッキング式電気炉の炉内上下反対側の室の奥行を一方の室に於て深く他方の室に於て浅く裏装して置き、鉄鉱石、還元剤、熔剤等の粉体を装入し、左右両側の固定支持壁を貫通する電極の各アークの位置及び各アークの強さを調節し炉体の揺動と相俟つて炉内装入物の温度を各部均一に保ちながら最初の還元操作を深い方の室で成る可く 1050°C 以下の温度で緩速に行い、次の熔錬操作を浅い方の室で成る可く 1450~1600°C で急速に行い純粋に近い鉄を造り、或は更にこれに炉内で必要元素を添加して各種の鋼を精錬する。

電気製鉄用予備製錬装置

特公・昭 35—5256 (公告・昭 35—5—17) 出願: 32—10—23, 出願発明: 中島統一

漏斗形下段還元室と漏斗形上段焙焼室とを連設し上段室に於ては原料装入管を頂部に又風を旋回上昇させるための羽口を底部に偏心方向に夫々開口させ、下段還元室に於ては還元剤補給管を側壁上部に開口させ電気製鉄炉からの発生ガスと補給室からの補給還元ガス導入管を底部の焼鉱溜上に導入して抬頭させ且底部取出管を前記電気炉の装入管に直結したことを特徴とする。

角型履歴磁性合金

特公・昭 35—5257 (公告・昭 35—5—17) 出願: 32—12—11, 発明: 阿部幸平, 佐藤 隆, 出願: 東北金属工業株式会社

Ni 47~52% に、Mn 0.1~1%, Si 0.05~0.5% を同時に含有し、残り Fe より成る合金を強度の冷間圧延の後 1000~1300°C の間の温度で乾燥水素中で熱処理したことを特徴とする。

耐磨耗性高クローム鑄鉄

特公・昭 35—5258 (公告・昭 35—5—17) 出願: 33—4—14, 発明: 浦部広明, 出願: 住友機械工業株式会社

C 2.5~3.7%, Si 0.1~2.5%, Mn 0.2~1.5%, Cr 19~30% と、少量の燐、硫黄を不純物として含有し、これに Se, La, デイデウム及び他の稀土類元素を 0.001~0.5% 添加せる残余鉄よりなる耐磨耗性高クローム鑄鉄。

高強度耐熱合金

特公・昭 35—5259 (公告・昭 35—5—17) 出願: 33—4—11, 発明: 長谷川太郎, 落合 治, 出願: 住友金属工業株式会社

C 0.03~0.3%, Cr 17~21%, Co 10~30%, Mo 11% を超え 15% 以下, Ti 2~3.5%, Al 0.5~1.5%, Si 0.03~1.0%, Mn 0.03~1.5%, Fe 0~5% 残部 Ni 及び不純分よりなる主として面心立方格子型の格子構造をもつ高強度耐熱合金。

金属鑄型表面の被覆加工法

特公・昭 35—5260 (公告・昭 35—5—17) 出願: 32—7

19, 優先権: 1956—8—8(仏), 発明: ルシアン・ペラ, 出願: レジー・ナショナル・デ・ユジヌ・ルノー

金属または合金を鑄造するための金属製鑄型の表面にその鑄型を使用するに先立つて、最初の被覆が少くとも 15% の Cr を含有する合金から成り、つづいて施される被覆が 70~100% のクロムを含有する金属成分 10~50% とアルミナ 50~90% とを含むサーミットから成るものを吹管または吹付ガンから熔融状態で吹付けることによつて多層の被覆を順次に施すことより成る。

金属ストリップ等の連続熔接方法

特公・昭 35—5264 (公告・昭 35—5—17) 出願: 32—11—5, 発明: ウォーレス・コリンスラッド, 出願: マグネチック・ヒーティイグ・コーポレーション

アーク熔接法

特公・昭 35—5265 (公告・昭 35—5—17) 出願: 32—8—14, 優先権: 1956—8—14 (米) 発明: フランク・セオファン・スタンチャス, 出願: ユニオン・カーバイド・コーポレーション

チタニウム鉄鋼との合板製造法

特公・昭 35—5266 (公告・昭 35—5—17) 出願: 32—9—16, 発明: 武井 武, 平山和夫, 出願: 理化学研究所

Ti と鉄鋼とを密接状態に於て真空又は不活性ガス雰囲気中で 900~1100°C に加熱して合板素材を得たる後、これを 850~1000°C で熱間圧延又は熱間プレスする。

浮遊選鉱法

特公・昭 35—5351 (公告・昭 35—5—18) 出願: 33—10—31, 発明: 三野英彦, 清水 照, 出願: 三井金属鉱業株式会社

線材端部に頭を作る装置

特公・昭 35—5356 (公告・昭 35—5—18) 出願: 32—10—19, 発明: 岡田千里, 出願: 日本コンクリート工業株式会社

鉱石類の処理装置

特公・昭 35—5452 (公告・昭 35—5—19) 出願: 32—11—6, 出願発明: 野際幸雄

サイクロン型をなす還元炉と熔融炉又はガス発生炉との中間にガス温度調節炉を設け、該熔融炉又はガス発生炉より供給されたガス流をガス温度調節炉に供給し該炉に炭素源物質或は水素源物質を供給して還元性ガスの調整を行うと共にガス温度の低下調節を計り、該調節炉より還元性ガスを還元炉に旋回流として導き該還元炉中の該旋回流に微粉鉱石を供給し旋回流中に於て鉱石の還元を行い還元炉炉底に還元鉱石を捕集するようにした。

調質装置用搬送装置

特公・昭 35—5453 (公告・昭 35—5—19) 出願: 32—6—17, 優先権: 1956—6—21 (米), 出願発明: ハロルド・ノオレガアド・イプセン

鑄鉄添加用混合物

特公・昭 35—5456 (公告・昭 35—5—19) 出願: 33—4—22, 出願発明: 日下和治

CaC₂ 40~47%, Ca-Si 40~47%, MgF₂ 4~18%, RF₃ (希土弗化物) 2~10% からなる球状黒鉛鑄鉄製造用の添加混合物。